

理系PIをめざすための準備プログラム vol.6

ラボ教育 / 理系ラボにおけるSTEM教育およびDBER

これからの研究室 — 学問のあり方を添えて —

SPEAKER

京都大学 学際融合教育研究推進センター 准教授

宮野 公樹 Miyano Naoki

京都大学学際融合教育研究推進センター准教授。立命館大学理工学部卒業。同大学博士後期課程修了。その後、McMaster大学、立命館大学、九州大学を経て2011年より現職。京大総長学事補佐、文部科学省学術調査官の業務経験も。国際高等研究所客員研究員。一般社団法人STEAM Association代表理事。2022年から日経STEAMアドバイザー。近著「問いの立て方」(ちくま新書)。「世界が広がる学問図鑑」2023年2月(Gakken)の監修も。

VENUE/DATE

東北大学川内北キャンパス 教育・学生総合支援センター4階 大会議室

2024.6.15 sat. 10:00-12:00

対面/オンデマンド受講どちらでも可

ラボ運営の手法習得の前に、そもそもラボとは何か、ひいては、研究ないしは学問とは何か、そして教育とは何か…

これらをまず考えおくことが何より重要と考え、本講義では参加者に問いかける形式でグループセッションを行い、これらを通じてラボについての理解を深める。

例えば、ラボは特定の専門分野における研究を遂行する単位ではあるが、今日の学术界では分野横断的な研究が推奨されている。これに対してPIはどのように振る舞えばいいのだろうか。ラボメンバーがラボの専門以外の領域について学ぶ事も珍しくない状況において、PIの対応、態度は非常に重要な意味を持つ。講義では、これらについて何かベストアンサーを掲示するつもりはまったくない。参加者同士で対話し、自身を振り返る時間となることを目指すものである。

